

新しい防災ヘリが静岡県民を 空から守ります！

～ 消防防災ヘリコプターの新たな運航体制～



危機管理部消防保安課

静岡県消防防災航空隊の概要

- 南海トラフ地震等の大災害への対処や、山岳遭難等における救助・救急活動、山林火災の消火、災害時の情報収集等の消防活動に対応するため、平成9年から「静岡県消防防災航空隊」が発足。
- 現在、平成9年に導入した消防防災ヘリコプター（BK117C-1）により活動しているが、より一層の機能強化を図るため、最新の装備・安全装置を搭載した新機体（AW139）を導入。

静岡県消防防災航空隊の現状

- 機材
 - 川崎重工(株)製BK117C - 1型
- 構成員
 - 航空隊員8人・・・県内消防本部から派遣された消防職員
- 運航体制
 - 8:30 ~ 17:15(災害対応は日の出から日没まで) 1年365日体制
- 運航実績(平成30年)
 - 緊急運航(火災、救助、救急)・・・123件 104時間
 - 通常運航(訓練、運航検査等)・・・145件 166時間

機体更新と災害対応力の向上

機体	現行機(1997年2月導入) 川崎重工(株)製 BK117C-1型 ・最大離陸重量 3.35 t ・出力 1,416 馬力 ・巡航速度 248 km/h ・航続距離 555 km	更新機(2019年9月運航予定) イタリア レオナルド社製 AW139 ・最大離陸重量 6.4 t ・出力 3,358 馬力 ・巡航速度 278 km/h ・航続距離 755 km
		
更新による効果 災害対応力の向上	機体のグレードアップ 一度に 多人数の救助 が可能 エンジン出力の増大 富士山等の 高高度地帯での救助能力 が向上 巡航速度の向上 被災地への 迅速な到着 が可能 航続距離の向上 重症患者を 遠方へ搬送 することが可能	

機体更新と安全性の向上

更新機	イタリア レオナルド社製 AW139
更新による効果 安全性の向上	<p>全国で相次いだ防災ヘリコプターの事故を踏まえた対応 山岳救助などの過酷な活動時における安全性向上</p> <p>安全装備の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・障害物等警報装置・気象レーダー・後方監視モニター・フライトレコーダー、ボイスレコーダー 等 <p>運航体制の充実強化(検討中)</p> <ul style="list-style-type: none">・操縦士2人体制の導入(次ページ)・CRM訓練の導入・シミュレーターを活用した操作訓練導入 等

CRM (Crew Resource Management) 訓練: 安全で効率的な運航を達成するために、すべての利用可能な人的リソース(航空機乗組員、運航管理者、整備士等)、ハードウェア(機器)及び情報を効果的に活用するための訓練をいう。

2人操縦体制の導入に向けて(予定)

消防防災ヘリコプターの安全性向上・充実強化に関する検討会報告書
(平成30年3月総務省消防庁)

2人操縦体制の導入により、機長に生じる不測の事態への備えや計器類の操作補助によって機長の負担軽減を図ることにより、安全性の向上を図る必要



機体更新のタイミングに合わせて、出来るだけ早期に2人操縦体制を導入

今後のスケジュール

【4月～8月】

【9月～】

【翌年1月頃～】

【4月頃～】

隊員の
慣熟訓練

新機体
運航開始

2人操縦
体制試行

2人操縦
体制へ

- ・ 4月から、新機体による訓練を開始



- ・ 令和元年9月に運航開始予定

さらなる安全性の向上とともに



新しい防災ヘリによる運航体制を確立し

静岡県民を空から守ります！

